



有限会社お花畑

(介護センターお花畑)

住 所：〒963-1303 福島県郡山市熱海町熱海2-56
電 話：024-984-3518



Vol.
29



和やかな雰囲気スタッフ



郡山市熱海町の有限会社お花畑は、2024年に創業20周年を迎えました。地域の皆さまが安心して暮らせる環境づくりに貢献しようと、創業者の六角泉さん、そして跡を継いだ代表取締役の宗像有美さんら、スタッフ一同は、今日も高齢者の福祉事業に取り組んでいます。

**地域に貢献する高齢者福祉
事業に取り組んで**

多様な高齢者介護・福祉事業を提供

お花畑が運営するのは主に7事業です。

- ① 居宅介護支援事業所
「介護センターお花畑」
- ② 訪問介護事業所
「介護センターお花畑」
- ③ 定期巡回・随時対応型
訪問介護看護「定期巡回お花畑」
- ④ 介護・福祉タクシー
「介護センターお花畑」
- ⑤ 1日型デイサービス
「介護センターお花畑おつき」
- ⑥ 半日型リハビリデイサービス
「コンパスウォークお花畑」
- ⑦ 地域交流プロジェクト
「くらんしょ あたみ」



創業者の六角泉さん

会社名称の「お花畑」は聞いただけで心が温かくなります。創設者の六角泉さんは『利用者の生きる喜び』『職員の働く喜び』の実現、笑顔あふれる人生の花を咲かせましょうという理念のもとで名付けました。S.M.A.Pさんの歌『世界に一つだけの花』にもあるように、どの人も「オンリーワンの人である。人生の花を咲かせるお手伝いをしよう」という気持ちで、介護や福祉事業を進めていきたいと思っています」と話します。現在は長女・宗像有美さんが代表取締役を務めています。

郡山に戻り 特別養護老人ホームに就職

六角さんは高校を卒業して自動車販売会社に就職。仕事に慣れた頃には、自分が思い描く事業とは違うと感じ、福祉系の大学進学を志して挑戦しましたが、合格できず、成人後に上京。働きながら保母の資格を取得しようと再び挑戦しましたが、都会での青春時代を満喫してしまい、志は絶えてしまいました。母の生家の近くに姉が嫁ぎ、その地域に特別養護老人ホームが設立されることになり、採用試験が行われる、という情報がありました。そこで六角さんは採用試験(筆記試験や面接、体力測定)を受けて見事合格。郡山市に戻って、勤務を始めました。六角さん22歳の時でした。

当時の理事長は、福島県でも社会福祉の先駆者の方で、六角さんは今でも皆さんの身分と生活を保障します」という辞令交付式の言葉を鮮明に覚えています。

施設の理念として「福祉のこころ、温かい思いやりのこころ」が玄関先に掲げられていました。六角さんはこの理念を見るたびに、「真心、思いやりが利用者さんたちに届けられたらどうか?と、いつも思っていました。同期の15人のメンバーは、すべてが初体験で、毎日が学びの連続

でした。当時、施設長が『お母ちゃんになった時に誇れる施設にしよう』と包み込む愛の心で私たちに話してくれました。とにかく夢中で、一丸となって、気持ち良く働いていましたね。今、目標にしている『働く喜びの実現』の原点だったのでしょう』と振り返ります。

施設では、寮母という名称で就労し、通信教育で社会福祉主事任用資格を取得。介護福祉士の国家資格も得ることができ、介護職から施設の生活相談員、デイサービスの相談員などを経験することができ、私生活では子ども4人の出産で、同期の仲間たちと共に、「良いお母ちゃん」になりました。



体を動かしてリラックスするエクササイズ

介護保険制度の導入

2000(平成12)年4月、介護保険制度が全国で導入・開始されました。日本は世界有数の高齢社会を迎え、社会全体で支える「介護の社会化」へ、従来の行政措置(措置制度)から、介護保険を使った民間事業者の参入という動きが起きました。

在宅介護のベンチャー企業の参入で、テレビ「コマーシャルの」いのちにやさしく」というキャッチフレーズに魅せられ、六角さんは23年間勤めた施設からの転職を決断しました。退職の時、理事長は六角さんのこれまでの勤務をねぎらい、そして「福祉は利益を求めてはダメなんだよ」と福祉の理念を説きました。六角さんはこの言葉を胸に抱き、新しい職場での仕事を開始しました。

民間企業で経営のノウハウを学ぶ

新しい職場では、介護支援専門員として、介護保険制度のより深い理解や、行政からの情報収集、PCシステム、全国からの情報、東北、関東のスタッフ同士の研鑽、そして本社からのマニュアルは今まで学んだ事のない在宅ケアのノウハウに感激しました。しかし、会社は制度上の法令遵

守がされず撤退することになり、全国レベルの介護技術の地方への提供の志は断念となりました(現在は、世界中どこでも提供できるXというものがありますが)。

再就職を考えていたところ、郡山市にはまだ開設されていないグループホームの設立を考えている田村市の医療法人との出逢いがあり、管理者として立ち上げからかかわるようになりました。母体のクリニックの理事はじめ、ご家族、職員、そして患者さんまでが温かい皆さんでした。

グループホームが開所し、スタッフにも恵まれましたが、早朝から夜中の帰宅で、未娘の面倒を見ることができず、施設が軌道に乗ったことをきっかけに、「業界の旅」から帰ることを決断します。「いのちにやさしく」を見つめ、まずは自分の側(はた)である宝物の家族を大切にしよう、自宅を事務所にして起業を決意しました。

在宅介護の

有限会社お花畑を設立

2004(平成16)年1月、「有限会社お花畑」を姉の都子さんと設立。当時、都子さんは60歳。姉として六角さんの一番の理解者でもあり、ヘルパー資格を取得して

の参加でした。資格取得の講師を務めた時に逢えた友人らも加わり、働く喜びを求めての出発でした。

創業の時、六角さんの脳裏に浮かんだ言葉があります。「金メッキは純金より光る」。六角さんは「私は金メッキにはなりたくない」という明確な意思がありました。そして「本当に大切なこと(理念や人間性)を、本音で話し合える仲間と、利用者さんが『これからこういうふうに生きたい』と思っている希望を尊重し、私たちがどのように実現に向けて支援できるか」と六角さんは創業の当時の思いを語ります。

「一つ一つが違っていて美しい花たちも、土がないと育たない。源となるもの、栄養やエネルギーとなる存在でありたい。お一人お一人に逢えた喜びに感謝し、生活の質の向上、生きる喜びの実現にどう

向き合うか? 私たちの十人十色のまごころを介護サービスとして実現していきたいと思いました。そのために、お花畑のスタッフは、日ごろから自分を大切に、健康管理を行い、介護技術、や接遇マナーを研鑽し、自分たちが持っている良いものを発揮することだと思えました」。

また、開業することで時間に余裕ができ、福島県介護福祉士会の事務局を担当した際は、県内各地の同志との交友も深まり、国家試験の実施試験委員や介護技術講習会の指導なども担い、良い経験をさせて頂きました。「まだまだ道半ばではありませんが、これまでの何一つ無駄のない多くの出逢いから築きあげられた、現在の財産に感謝しありません」と六角さんは語ります。



お花畑にあふれる笑顔=元職員で現在は利用者の方々

お互いに助け合う地域で 生まれ、育つ

創業20年ー現場で “咲き誇る”創業の思い

六角さんの原点は助け合いの心です。父の細川大正^{ひまき}さんは、六角さんが1歳半の時に胃がんで他界。町は皆が貧しいながらも、お互いに助け合うのが当然という地域。「農作業が終わらない人を見かけたら、みんなで手伝って、一緒に耕してあげるのが当たり前。助け合いが染みついていました」。

六角さんは、介護の世界でもともに働く若い人たちに時折、こう問いかけます。

「働くって、どういふことだかわかる？」

そして、その答えを明かします。

「側(はたし)隣の人、側にいる人)を楽にすること、なんだよ」と。働くことは1人でやることではなくて、隣の人、近所の人、仲間、家族という自分の「側(はたし)隣)」の人を楽にすることだ、と。どの職場にも、仕事ができる人もいれば、遅い人もいます。細かい仕事得意な人もいれば、苦手な人も。特性、得意分野を生かして、「側)を楽にする。地域の人々のために、ともに働いて貢献するーその思いがお花畑には生きているのです」。



現在代表取締役の宗像有美さんは、幼いころから母親の六角さんが仕事をする姿を見てきました。「介護」の仕事は大変なイメージが強く、この道には進まないと思っていましたという有美さんでしたが、「母の仕事を支えてくれた叔母(都子さん)や働く仲間の皆さん、そして地域の中にある事業所の連携を密に取り合える皆さんのおかげで事業が継続できています。お世話になった職員の皆さんには、それぞれのキャリアライフが最高に締めくくれるように、リタイア後も一生をかけて恩返しとしたいと思ったことが、母の跡を継ぐことを決めた大きな理由です」と宗像さん。「利用者さん、そして職員の人生がより豊かになるようにと日々願っています」と話します。

「利用者さんは、お花畑のスタッフと接した時、どういう表情で過ごしているかな」と具体的に描けることで、より良いサービスを提供しなければとモチベーションもアップします。利用者さんと介護職員は、いつもお互いに「ナイス・パス」を続ける関係のように思えます。介護スタッフが良いパス(介護サービス)を提供できたなら、利用者さんも最高に素敵な笑顔で、そのパスを返してくれるのですから」と六角さんはにこやかに語ります。



利用者さんとのコミュニケーションを大切に

お花畑の笑顔あふれる介護の現場。利用者として介護スタッフお互いが「側(はた)を楽にしようとする思いやりの心であふれています。六角さんがまいた種は、宗像さんや職員に引き継がれています。そしてみなさまに世界に一つだけの花が咲き誇るような、輝く命の出逢いの場を提供していききたい。スタッフ一同、そうした出逢いに心から感謝し、今日も、笑顔というプレゼントを常備して元気に取り組んでいます」。

採用と教育研究所

saiyo to kyouiku kenkyujyo

志ある中小企業経営者の応援団として「採用から共育」まで一貫した支援サービスを行っている。これまで数多くの社員、職員の採用・人財育成・職場定着等に携わり、CSR(社会貢献活動)を活用した「いい会社創り」のサポーターとして定評がある。



YELL

Vol. 29

2025年1月1日

発行：採用と教育研究所

〒960-8055

福島県福島市野田町 6-7-8

電話 024-529-5153

info@saiyoutokyouiku.com

